| 作成年月日   | 平成23年6月20日  |
|---------|-------------|
| 作成部局課室名 | 企画県民部広報課広聴室 |

# 県民モニター「第1回アンケート調査」結果概要

## 1 調査概要

- (1) 調査テーマ:「ひょうごの食育推進に関する意識調査」
- (2) 調査対象者:県民モニター2,338人
- (3) 調査期間 :平成23年4月22日(金)~5月11日(水)[20日間]
- (4) 調査方法 :県ホームページ上のアンケートフォームに入力
- (5) 回答者数 :1,047人(回答率44.8%)
- (6) 自由記入欄 :9箇所設定(回答者の54.3%がいずれかに記載)

# 2 調査結果の概観

### (1)健全な食生活の実践

<参考-対象者及び回答者属性>

|          |        | 対象者               | 回答者 | 回答率   |
|----------|--------|-------------------|-----|-------|
|          | 総数     | 2,338 1,047 44.89 |     | 44.8% |
| 性        | 男 性    | 1,284             | 609 | 47.4% |
| 別        | 女 性    | 1,054             | 438 | 41.6% |
|          | 10~20代 | 145               | 46  | 31.7% |
| <u>ب</u> | 30代    | 427               | 133 | 31.1% |
| 年代       | 40代    | 483               | 191 | 39.5% |
| 別        | 50代    | 375               | 194 | 51.7% |
| נית      | 60代    | 550               | 309 | 56.2% |
|          | 70~80代 | 358               | 174 | 48.6% |

| 項目                              | アンケート結果(主な意見)  | 結果の考察   |
|---------------------------------|--|---|
| 朝食の喫食                           | [朝食を毎日食べる人:92.5%]<br>*男女別・年齢別内訳<br>最低 最高<br>[男性]30歳代:87.5%,70歳代98.5%<br>[女性]20歳代:78.1%,60歳代97.2%                                       | 全体では9割以上(92.5%)が毎日朝食を食べているが、<br>男女とも60~70代で毎日食べる人の割合が高い一方で、<br>20~30歳代で毎日食べる人の割合が低い。<br>朝食の大切さなどについて若い世代へ向けた啓発をより<br>一層強化する必要がある。   |
| 食事づくりの実践                        | 『ほとんど毎日1回以上』:44.8%<br>(ほとんど毎日2回以上:31.0%、ほとんど毎日<br>1回:13.8%)  | ほとんど毎日1回以上食事づくりをする人は44.8%である<br>が、毎日1回以上食事づくりをする人でも、男性23.5%,女<br>性74.5%と男女で差がある。<br>全世代男女とも食事づくりに積極的に取り組めるように、<br>知識や技術を身につける機会を提供する。   |
| 家族や友人と食事<br>する機会(1日1回以<br>上)の有無 | [ほとんど毎日:71.3%]<br>*男女別・年代別内訳<br>[男性]20~30歳代:62.3%<br>40~50歳代:56.1%<br>60歳以上:79.2%<br>[女性]20~30歳代:69.6%<br>40~50歳代:72.0%<br>60歳以上:72.4% | 全体の7割以上(71.3%)がほとんど毎日家族や友人と食<br>事をしている。男女とも60歳以上では7割以上と割合が高<br>い一方で、40~50歳代では男女差が大きく男性の割合が<br>低い。<br>家庭では家族と、学校や職場では友人や同僚と、一人<br>暮らしの高齢者はデイサービスや近所の友人と一緒に食<br>事をする等、仕事と私生活のバランスを整え、その人に<br>あった"楽しく一緒に食べる"機会が増えるよう啓発する必<br>要がある。 |
| 基本的な食料の確<br>保                   | 【国内産の比率をできるだけ増やすべき:<br>78.5%】<br>* 兵庫県産について<br>【国内産であれば兵庫県産にこだわらない:<br>43.1%】<br>【できるだけ兵庫県産を利用したい:54.5%】                               | 全体では約8割(78.5%)が基本的な食料の確保について<br>「国内産の比率を増やすべき」と考えており、そのうち半数<br>以上(54.5%)の人ができるだけ兵庫県産の食材を利用し<br>たいと回答した。<br>産地のよく分かる国内産、なかでも地元兵庫県産の食材<br>を使いたいとのニーズが高く、地産地消の推進をより一層<br>図っていく必要がある。   |

#### (2) 農産物直売所等の利用状況

| 項目                               | アンケート結果(主な意見)   | 結果の考察   |
|----------------------------------|---|---|
| この1年間での農産<br>物直売所(道の駅等<br>含む)の利用 |   | 農産物直売所の利用状況では、約半数(48.5%)の人が<br>「年に数回くらいの利用」をしているが、「月1回以上の利<br>用」は3割半ばであった。期待する理由では、「食材のお<br>いしさ・新鮮さ」が7割以上(74.3%)、「地元食材の提供」<br>「食品の安全性」「価格の安さ」が6割以上であり、農産物 |
| 農産物直売所に期<br>待する理由                | [食材のおいしさ・新鮮さ:74.3%]<br>【地元食材の提供:66.6%]<br>[食品の安全性:61.9%]<br>【価格の安さ:61.0%] | 直売所の特徴について理解が得られていることがうかがえる。<br>より一層、おいしく新鮮で、安全・安心な地元食材を提供できるよう農産物直売所の機能充実に努めていく必要がある。  |

# (3) 食育への関心、実践

| 項目                    | アンケート結果(主な意見)  | 結果の考察   |
|-----------------------|--|---|
| 食育への関心                | <sup>®</sup> 関心がある』: 89.3%<br>(非常に関心がある: 28.7%、どちらかといえば<br>関心がある: 60.6%)<br><sup>®</sup> 関心がない』: 10.6%<br>(あまり関心がない: 10%、まったく関心がない: 10%、まったく関心がない) | 全体で約9割(89.3%)の人が食育に「関心がある」が、「食<br>育活動を実践している」人は約半数(47.1%)であった。<br>関心のある食育活動では「子どもへの食育(73.3%)」「病<br>気の予防や改善などの健康づくり(71.4%)」が7割以上であ<br>る。<br>食育を「関心」から「実践」に繋げるためには、わかりやす<br>い食育の啓発と関心のある食育活動を契機とした実践の |
| 食育活動の実践               | *実践している』:47.1%<br>(積極的にしている:7.7%、できるだけするよう<br>にしている:39.4%)<br>*実践していない』:52.9%<br>(あまりしていない:27.9%、したいと思ってい<br>るが実際にはしていない:22.3%、したいとは思<br>わない:2.7%) | 場づくりを進める必要がある。<br>また、食育を進めるために力を入れる対象としては「小学<br>生」「妊産婦・乳幼児」「中学生」の順に高い。食生活が将<br>来の疾病予防だけでなく人間形成にも大きく影響すること<br>から、学童期に軍点を買いて対策を進めると同時に親の  |
| 関心のある食育活<br>動の内容      | 【子どもへの食育:73.3%】<br>【病気の予防や改善などの健康づくり:71.4%】<br>【郷土料理や食文化を伝える活動:54.8%】<br>【食品廃棄や食品リサイクルに関する活<br>動:41%】<br>【農林漁業などに関する体験活動:27.7%】                    |   |
| 食育を進めるために<br>力を入れる対象者 | [小学生:84.4%]<br>【妊産婦·乳幼児:62.6%]<br>【中学生:61.7%】<br>【高校生:27%]   |   |
| アンケート結果は、<br>する。      | 「食育推進計画~食で育む 元気なひょうご~  | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  |

# 3 調査結果

- (1)健全な食生活の実践について
  - Q1 朝食を食べているか。

(1) ほとんど毎日 92.5%

- (2) 週4~5回
- (3) 週2~3回
- (4) ほとんど食べない



Q2 朝食は、主に誰が用意(調理)することが多い か。

- (1) 自分で調理する
- (2) 家族の誰かが調理する 39.4%

49.6%

13.8%

17.8%

18.1%

19.4%

- (3) 自分と家族の誰かが一緒に調理する 6.9%
- (4) 飲食店やスーパー、コンビニで購入 3.1%
- (5) その他 1.1% ・調理不要のものを食べる 11件



- Q3 食事づくり(食材の買い物や調理など)の頻度 は。 (1) ほとんど毎日2回以上 31.0%
  - (2) ほとんど毎日1回
  - (3) 週2~4回
  - (4) 週1回程度
  - (5) ほとんどしない



Q4 自分で行っている食事づくりの内容は。(10項 目からいくつでも選択)

| (1)  | 献立を考える                   |      | 59.7% |
|------|--------------------------|------|-------|
| (2)  | 食材の買い物                   |      | 72.5% |
| (3)  | 食材を洗う                    |      | 62.4% |
| (4)  | 包丁を使い材料を切る               |      | 63.6% |
| (5)  | コンロ(ガス・電気)を使って           | 調理する | 65.2% |
| (6)  | 電子レンジ・オーブントース<br>使って調理する | マターを | 66.9% |
| (7)  | 味付けをする                   |      | 62.4% |
| (8)  | 盛りつけ・配膳                  |      | 61.9% |
| (9)  | 後片付け                     |      | 76.8% |
| (10) | その他                      |      | 8.3%  |
|      | ・自分で行わない                 |      | 61件   |
|      | ・弁当を作る                   |      | 4件    |
|      |                          | など   | 87件   |
|      |                          |      |       |



Q5 家族や友人と楽しく食事を食べる機会(1日1回 以上)があるか。

| ほとんど毎日 | 71.3%                              |
|--------|------------------------------------|
| 週4~5回  | 8.6%                               |
| 週2~3回  | 12.6%                              |
| ほとんどない | 7.5%                               |
|        | ほとんど毎日<br>週4~5回<br>週2~3回<br>ほとんどない |



Q6 最近1年間に農作業(市民農園や家庭菜園を 含む)をしたか。

- (1) 日常的にやっている
- (2) 最近はないが、以前にやっていた 23.5%
- (3) やってみたいが、やったことはない 34.9%
- (4) やってみようとは思わない



Q7 基本的な食料の確保について、どう考えるか。

| (1) | 輸入に依存してもよい。または、依<br>存せざるをえない | 4.2%       |
|-----|------------------------------|------------|
| (2) | 安全が確保されるならば、輸入に<br>依存してもよい   | 15.3%      |
| (3) | 国内産の比率をできるだけ増やすべき            | 78.5%      |
| (4) | わからない                        | 1.3%       |
| (5) | その他                          | 0.7%       |
|     | ・地産地消に取り組むべき                 | 1 <b>件</b> |
|     | ・輸出入のバランスが重要                 | 1件         |

など

7件

をの他, 0.7% もよい。または、 な存せざるをえない, 4.2% を全が確保されるならば、輸入 に依存して もよい。または、 ない, 4.2% を全が確保されるならば、輸入 に依存してもよ り、1.3%



- (1) 国内産であれば、兵庫県産にこだ わらない
- (2) できるだけ兵庫県産を利用したい 5
- (3) わからない
- (4) その他
  - ・地産地消を進めるべき 4件
    ・季節に応じて使い分けたい 3件
    など 15件



0%

20%

40%

60%

80%

Q8 子どもの頃から習得すべき食習慣などで大切 44.1% だと思うものは。 自分で調理ができる (1) 自分で調理ができる 44.1% 自分で農作物を栽培できる 12.6% (2) 自分で農作物を栽培できる 12.6% 地元や県内産、旬の食材を知り、選 (3) 地元や県内産、旬の食材を知り、選ぶ 25.2% 25.2% ぶ (4) 食事の栄養バランスや料理の組合 47.3% 食事の栄養バランスや料理の組合 せを考えられる 47.3% せを考えられる (5) 食品を無駄にしない(食べ残しや 69.8% 食品を無駄にしない(食べ残しや廃 廃棄をしない) 69.8% **棄をしない**) (6) 食事の作法やマナーを身につける 46.4% 食事の作法やマナーを身につける 46.4% 43.9% (7) 家族や友人と楽しく食卓を囲む (8) 郷土料理(伝統料理)を知る機会 家族や友人と楽しく食卓を囲む 43.9% 9.6% を増やす 郷土料理(伝統料理)を知る機会を (9) その他 1.0% 9.6% 増やす ・栽培、採集の機会を持つ 3件 その他 1.0% など 10件

## (2) 農産物直売所、食の健康協力店の利用、飲食店への期待について

Q9 この1年間に農産物直売所(道の駅なども含む)を利用したことがあるか。

(1) 週1回以上8.5%(2) 月1回以上26.9%(3) 年に数回くらい48.5%(4) 利用したことがない16.0%



#### Q10 農産物直売所に、あなたが期待することは。

- (1) 地元食材の提供66(2) 食品の安全性61
- (3) 食材のおいしさ・新鮮さ
- (4) 価格の安さ
- (5) 家から近いなどの利便性
- (6) 農業体験・食育活動の実施
- (7) 地域住民との交流
- (8) その他・生産者、生産地等の明記

など



- Q11「食の健康協力店」を知っているか。
  - (1) 知っており、利用したことがある
  - (2) 知っているが、利用はしていない
  - (3) ステッカーは見たことがある
  - (4) 知らない







#### (3) 伝統的な食文化の継承

Q13 地元や県内で生産されている食材について あてはまるものは。

- (1) 知っており、よく食べている
- (2) 知っており、たまに食べている
- (3)知っているが、食べているかわから ない(食べていない)14.5%
- (4) 知らない



知らない,11.0%

# Q14 お住まいの地域の郷土料理(伝統料理)についてあてはまるものは。

- (1) 知っており、作れる 27.1%
- (2) 知っているが、作れない 37.8%
- (3) 知らない 35.1%



## (4) 食育への関心や実践について

- Q15 食育という言葉や意味を知っているか。
  - (1) 言葉も意味も知っている
  - (2) 言葉は知っているが、意味は知らない 20.1%
  - (3) 言葉も意味も知らない(または、今 5.2% 回始めて知った)

言葉も意味も知 らない(または、 今回始めて知っ た), 5.2% 言葉は知ってい るが、意味は知 言葉も意味も らない、20.1% 知っている, 74.8%

非常に関心があ

る, 28.7%

まったく関心が

ない. 0.6%

どちらかといえ ば関心がある。 60.6%



74.8%

0.6%

- (3) あまり関心がない
- (4) まったく関心がない



017 どのような食育活動に関心があるか。

- (1) 子どもへの食育 (2) 病気の予防や改善などの健康づくり (3) 郷土料理や食文化を伝える活動
- (4) 農林漁業などに関する体験活動 食品廃棄や食品リサイクルに関す
- (5) る活動
- (6) 食育に関する国際交流活動
- (7) 備蓄食品の啓発や災害時の炊き 出しなどの活動

(8) その他 ・あらゆる年齢層への食育 家庭菜園を通じた活動 など Q18(Q17の食育活動について)何らかの形で実践 しているか。

- (1) 積極的にしている
- (2) できるだけするようにしている 39.4%
- (3) あまりしていない
- (4) したいと思っているが、実際にはし ていない
- (5) したいとは思わない



Q19 食育を進めるためどのような対象者へ力をいれるべきか。

- (1) 妊産婦·乳幼児
- (2) 小学生
- (3) 中学生
- (4) 高校生
- (5) 19~30歳代
- (6) 40~64歳
- (7) 65歳以上

Q20「食」に関する兵庫県の特徴や次世代に伝えたい食生活についての自由意見

| (1) | 県産食品、郷土料理のPRが必要           | 90件 |
|-----|---------------------------|-----|
| (2) | 地産地消の推進                   | 90件 |
| (3) | 伝統料理、特産品の継承               | 58件 |
| (4) | 家庭での食事作りが大切               | 50件 |
| (5) | 体験や学習機会の充実                | 43件 |
| (6) | 野菜を中心とするなど、 バランスよ<br>い食生活 | 29件 |
| (7) | 食の安全性の確保、その周知             | 22件 |
| (8) | 食べ物を大切にする心の育成             | 22件 |
|     |                           |     |

など 494件

企画県民部広報課広聴室広聴係 (TEL078-362-3021)

